

2026年度
八戸学院大学
地域経営学部 地域経営学科
学校推薦型選抜

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

問

現代社会において「経営者に求められる資質」の一つとして、異文化理解力や多様な文化への対応力は特に強調されている。以下の記事を読みデイカス氏がトップとして注目されている異文化対応可能な資質をまとめたうえ、なぜ異文化理解力や多様な文化への対応力は経営者に必要かについて、あなたの考えを、導入→本論→結論の三部構成で、600字以上800字以内で述べなさい。

セブン&アイ・デイカス社長、「チャレンジャー精神に戻り商品開発力上げる」と強調

セブン&アイ・ホールディングス（HD）の社長に5月に就任したスティーブン・ヘイズ・デイカス氏（64）が、読売新聞のインタビューに応じた。主力の国内コンビニ事業が伸び悩んでいることから、商品開発力を上げ、店舗の設備投資も強化する方針を示した。

国内コンビニ事業の既存店売上高は、競合が直近で2～7％程度で推移しているのに対し、セブンイーレブンは0～2％程度と苦戦が続いている。デイカス氏はこうした状況を「セブンの商品の質と価値が圧倒的にベストだとは言にくい状況だ」と認め、「チャレンジャー精神に戻り、基本の商品開発力を上げて行く」と強調した。

セブンは6日に発表した新たな経営戦略で、2030年度までに国内店舗数を約1000店舗増やし、できたてのパンや紅茶などを販売する店舗を拡大する方針を打ち出した。

デイカス氏は「顧客のニーズは毎回変わる。今は理想の店舗だとしても、明日には理想ではない」とし、既存店への投資で店内設備やレイアウトの刷新を急ぐ考えを示した。

一方、海外事業は成長期待が高いとし、全世界で8万6000店舗という規模を生かすことでコスト削減や効率化を強化できるとの認識を示した。

また、日米欧でビジネス経験のあるデイカス氏は「小売業の競争が一番厳しいのは日本。消費者の目線が厳しく、料理はグローバルベストだ」と指摘。訪日客に人気が高い日本風の「たまごサンド」を北米で販売する方針も明らかにした。

セブンを巡っては、昨年夏にカナダのコンビニ大手アリマントーション・クシュタールが買収提案をし、経営が混乱した。買収提案は今年7月に撤回されたが、株価の低迷を改善しなければ、今後も買収リスクは残るとの指摘もある。デイカス氏は「アクティビスト（物言う株主）や買収から守ることだけを考えてはいない。新たな経営戦略をうまく実行すれば企業価値は絶対に上がる」と述べた。

（出典:読売新聞オンライン 「セブン&アイ・デイカス社長、「チャレンジャー精神に戻り商品開発力上げる」と強調」, 2025年8月28日, <https://www.yomiuri.co.jp/economy/20250828-OYT1T50011/>（閲覧日:2025年10月15日））